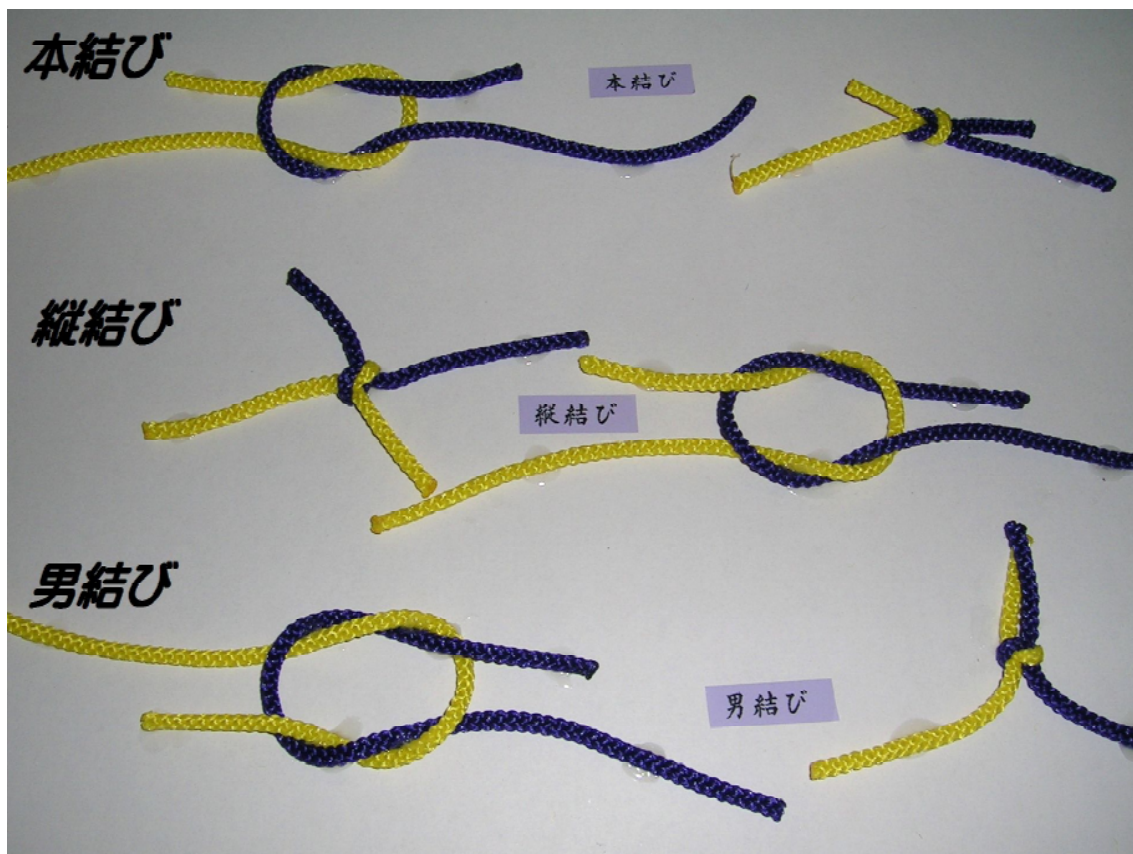




同じような結び方でも、それぞれ個性があります。3つの結び方を比べてみましょう。

本結び



結びやすく、解きやすい、ごく一般的な結び方です。

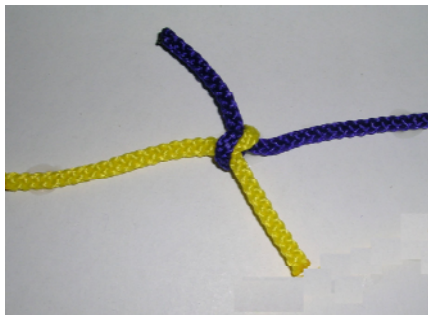


この結びを変形してみると左のような「ひばり結び」になります。この結び方は輪ゴムを連結する際などよく使われています。

互いに、相手のロープを自分の輪の中に閉じこめていくような構造です。

結び方は、一度交差させ、互いに内側同士を合わせるようにもう一度交差させます。

縦結び



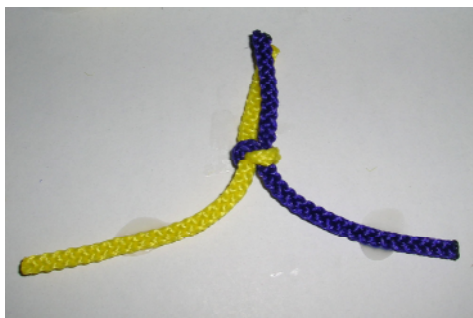
本結びをしようとして、時々このように結んでしまうことがあります。本結びが横結びと呼ばれるのに対して、結んだ端が縦に出てくるので、縦結びと呼ばれています。

構造を見てみると、互いに相手のロープを輪の中に閉じこめているのは本結びと同じですが、その輪の中への入り方と出方が逆サイドになっています。

このため、この結びは固く結んでしまうとなかなか解くのが難しくなります。逆に、緩い結び方だと結びが解けてしまうことがあります。

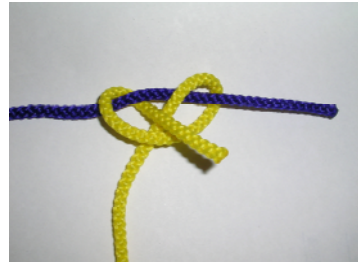
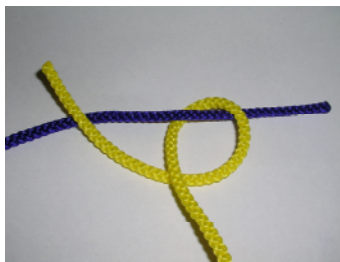
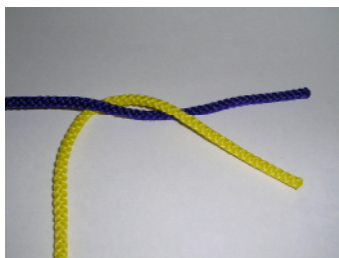
結び方は、一度交差させ、互いに外側同士を合わせるようにもう一度交差させます。

男結び



構造を見ると、前の2つととてもよく似ています。互いの輪の中に相手のロープを閉じこめています。そして、縦結びのように輪への出入りが逆サイドになっています。しかし、縦結びと違うのは、ロープの端が対角線の位置関係になっています。従ってこの結びを締めるとロープの端が上に写真のように同じ向きになります。

結び方は、本結び・縦結びと異なり、ロープの端を同じ方向に重ねます。



相手のロープをくぐり、自分の下をくぐる。相手の上からくぐって、輪の中を戻ってくる。ロープの端を固定して、両方のロープを引いて結び目を締め付けます。

この結びはロープをつなぐような用途よりも、ものを束ねるときに使われます。この場合、「垣根結び」と呼ばれています。

きつく束ねた状態のままで結ぶことができること、長いひもなどを使っても、端の部分を切らずに無駄なくひもを使えることなどの利点があります。



束ねるものに何回かロープを巻き付け、緩まないように端を被せるようにしてロープを留めます。



長い方のロープで端を巻き込むように輪を作ります。



この輪の根本を押さえつけて、束ねている力を緩めないようにしておき、ロープの端を輪の中に通します。

ロープの端を固定しておいて、輪になった方のロープを締め付けます。



束ねている力を緩めることなく、結ぶことができました。

締め付けた方の余分なひもを切ればできあがりです。端の部分を所定の長さで巻き付けることができますので、端を切り捨てることなく、ひもを無駄なく使うことができます。